

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

(其一三)

阿	吹	福	南	相	栢	中	由	内	生	高	友	田	加
那			边		原	津			石	崎		倉	
賀			寺						碗				
浦	上	良	山	川	山	川	良	田	崎	台	島	崎	太

= = = = = = = = = = = = = = = =

ノ	〃	〃	〃	〃	ノ	五才分一	ノ	〃	〃	〃	〃	〃	一才分一
ノ	ノ	ノ	〃	〃	〃	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	由良要塞近傍
德	鳴	伊	由	洲	和	尾	高	小	小	土	大	大	川
	門				歌		島	島	鳴	佐		島	
島	峽	島	良	本	山	崎	原	田	門	浦	毛	田	藻
=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=

由密第五八號

陸軍

本件國土計畫策定上必要已ハテ得スト認
ムルニ付陸軍機秘密書類取扱規則ニ依
リ取扱フ條件ヲ附シ申請、通許可差支
ナシト思料ス

昭和拾六年六月五日

由良要塞司令官山本重真



經父島要塞司令部
由昭和十六年六月三日
第五號

企畫院一發第一七七號

昭和十六年五月二十一日

企畫院總裁 鈴木貞

陸軍大臣 東條英機 殿

軍事極秘地圖借用ニ關スル申請ノ件

軍事極秘地圖借用ニ關スル申請

- 一 目的 國土計畫策定ノタメ
- 一 種類 地形圖
- 一 區域 別紙請求目錄ノ通
- 一 縮尺 同 右
- 一 部數 各二部
- 一 期間 一ケ年

企畫院總裁 鈴木貞

陸軍省
16.6.12
161
防衛課

昭和十六年六月十日

軍務局長 官印

軍務局長 官印

内閣

本件ノ御意見承り度

昭和十六年六月拾壹日

大臣官房

水上

防衛課 御中

參謀本部 御中

三

陸軍

軍事極秘地圖借用ノ件副申

昭和六年六月三日

父島要塞司令官川上護

一、省部保管ノ該地圖ハ部數少ク且本年度特別

ノ演習アリテ貸與シ得ス

ニ、父島ノ二万五千分ノ一ハ保管シラス、現在ハ二万分

ノ一ノミナリ

以上

水上



軍事要案
司令部
企畫院一發第一七七號

企畫院一發第一七七號

昭和十六年五月二十一日

企畫院總裁 鈴木貞

陸軍大臣 東條英機 殿

軍事極秘地圖借用ニ關スル申請ノ件

- 軍事極秘地圖借用ニ關スル申請
- 一 目的 國土計畫策定ノタメ
 - 一 種類 地形圖
 - 一 區域 別紙請求目錄ノ通
 - 一 縮尺 同 右
 - 一 部數 各二部
 - 一 期間 一ケ年



内閣

本件ノ御意見承リ度
 昭和十六年六月廿六日
 大臣官房
 防衛課 御中
 參謀本部 御中

水上

五十分一

羅洋

4 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 〇 〇 〃

一 倉	會 寧 西 部	行 營 西 部	富 辰	豐 山	會 寧 東 部	行 營	鍾 城	穩 城	柔 鎮	梨 津	新 洞	慶 野	古 乾 源
--------	------------------	------------------	--------	--------	------------------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------------

= = = = = = = = = = = = = = =

五十分一

二十分一

一分一

會寧縣東近傍

雄基東邊近傍

富

山城

靈泉

蒼苔

會寧東

大德

古豐

會寧西

南山

五峰

第一

第二

第三

第四

寧

山

洞

洞

部

洞

山

部

洞

山

號

號

號

號

=

=

=

=

=

=

=

=

=

=

=

=

=

=

ノ	ハ	ヒ	フ	ブ	ホ	ヘ	ベ	ヘ	ヘ	ヘ	ヘ	ヘ	ヘ
ハ	リ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
第十八号	第十七号	第十六号	第十五号	第十四号	第十三号	第十二号	第十一号	第十号	第九号	第八号	第七号	第六号	第五号
=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=

内

関

4 0 11 4 4 6 4 6 4 11 11 4 11 11

1 4 4 11 4 4 11 11 11 11 11 11 11

弟三十二号 弟三十一号 弟三十号 弟二十九号 弟二十八号 弟二十七号 弟二十六号 弟二十五号 弟二十四号 弟二十三号 弟二十二号 弟二十一号 弟二十号 弟十九号

= = = = = = = = = = = = = = =

紙

朝參密第七一八號

軍事極秘地圖借用願ニ關スル件

昭和十六年六月九日

朝鮮軍參謀長 高橋

陸軍次官 木村兵太郎殿

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通申請アリタルニ付申請書送付ス

追テ羅津要塞司令部ニハ五万分ノ一以下ノ地圖ハ保管シアラサルニ付中央部ニテ貸與スル如ク御取計ヲヒ相成度



陸軍

水上

金鑿院一發第丁七七號

昭和十六年五月二十一日

陸軍省 陸軍部 第三一三號

金鑿院組織 節 本

陸軍大臣 東 條 英 機 殿

軍事概略地圖借用ニ關スル申請ノ件

- 一 軍事概略地圖借用ニ關スル申請
- 一 目的 國土計畫策定ノタメ
- 一 種類 地形 圖
- 一 區域 別紙請求目錄ノ照
- 一 縮尺 同 右
- 一 部數 各二部
- 一 期間 一ヶ月

内閣

陸軍省 16.6.7 前午 官

陸軍省 和昭 16.6.17 257 付受 掛類書

陸軍省 16.6.18 584 防衛課

司要 16.5.28 付受

本書類ハ陸軍大臣宛申請ニシテ 貴要塞ニ於ケル保護及 浙管長官ノ指示ニ依リ貸與スルニ付 下ニ思考 又據テ回送ス 陸軍大臣宛申請書 陸軍省 陸軍部 第三一三號

陸軍大臣宛申請ニシテ 貴要塞ニ於ケル保護及 邦教モ僅カナル以テ 該地圖ハ陸軍省ニ於テ 借用セラル、ヲ請フト思考ス 西部軍司令 昭和十六年六月廿八日

防衛課 御中

參謀本部 御中

水上

(別紙)

請求目錄

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	三才五干令一	梯
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	奄美大島	天
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	近岸	總
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	傍	図
瀬	西	宇	秋	古	久	湯	節	山	攸	図
古			仁							
武	先	檢	徳	屋	茲	湾	子	肉	勝	名
=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	部
										款

(奄美大島要略法由)

三才五十分一
五十分一
奄美大島軍塞近傍

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

西古湯名小赤立喜碩宝小平卧請
古仁 不利界富 宝 蛇
見屋湾瀬湊名崎島島島島島島

二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 内

閣

〃 〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃 〃

與	沖	平	山	龜	請
論	永	土			
島	良	野		津	島
	部				
	島				

= = = = = =

陸軍省 第五號

軍事極秘地圖借用ニ關スル申請ノ件 報告

昭和拾六年六月拾貳日

奄美大島要塞司令官海福三千

陸軍大臣東條英機殿

首題ノ件五月二十日企畫院一發第一七七號別紙ノ
書類送付有之ニ付所官長官ノ指示ヲ受テ夕九處
當部ニ該地圖ノ保管部數僅少ナルニ付陸
軍省ニ於テ借用スル様指示 有之ニ付報
告ス



陸軍

水上

企畫院一發第一七七號

昭和十六年五月二十一日

企畫院總裁 鈴木貞一

陸軍大臣 東條英機 殿

軍事極秘地圖借用ニ關スル申請ノ件

- 軍事極秘地圖借用ニ關スル申請
- 一 目的 國土計畫策定ノタメ
- 一 種類 地形圖
- 一 區域 別紙請求目錄ノ通
- 一 縮尺 同 右
- 一 部數 各二部
- 一 期間 一ケ年

第三二七九號



内閣

本件ノ御意見承リ度

昭和十六年六月拾九日

大臣官房

水上

防衛課 御中

參謀本部 御中

別紙

請求目錄

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	三才五干分一	梯
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	高雄軍塞近傍	尺總
九	屏	里	旗	材	佳	潮	内	海	塩	名	圖
堂	東	港	山	寮	冬	洲	埔	豊	浦	名	部
=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	部	数

(高雄要覽司合官法自)

五 分 一	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	三 分 五 分 一	
"	"	4	4	4	4	4	4	4	"	"	"	高 尾 要 塞 近 傍	
潮	塩	高 尾 外	赤	彌	竹	硫 球	小	高	楠	岡	大	東	仙
洲	浦	港	炭	陀	滬	嶼	港	雄	梓	山	山	港	廟
=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	内

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

彌台東高屏旗枋材
南
南

陀部港礁東山山寮

= = = = = = = =

高要地簿 一〇號

秘密地圖借用ニ關スル件 上申

昭和拾六年六月四日

高雄要塞司令官桂 朝彦

陸軍大臣東條英機殿

首題ニ件ニ關シ企畫院總裁ヨリ別紙

一通申請アリ 當部ハ異存無之ニ付

上申ス

陸軍



別紙

秘密地圖送付證

昭和 年 月 日

左記秘密地圖

左記

月 日 陸密第

號送付

一連番子
樞中之秘
シ僅手付
秘訂受
水上下所
水上
一字訂正

原簿記入簿	原簿記入簿	原簿記入簿	原簿記入簿	原簿記入簿	開製年月日	梯尺、總圖名、標記號	圖名	一連番號	部數
〃	〃	〃	〃	〃		二万五千分一回 下関要基近傍第一	田部	秘天第 至自 七五 號	式
〃	〃	〃	〃	〃			小月	秘天第 至自 七六 號	式
〃	〃	〃	〃	〃			白野江	秘天第 至自 七七 號	式
〃	〃	〃	〃	〃			喜多久	秘天第 至自 七四 號	式
〃	〃	〃	〃	〃			川棚温泉	秘天第 至自 七六 號	式

				原簿記入簿	原簿記入簿	原簿記入簿	原簿記入簿	原簿記入簿	原簿記入簿	原簿記入簿
				〃	〃	〃	〃	〃	〃	三万九千分一因 東京灣要港近傍
第	第	第	第	第二一號	第二〇號	第一九號	第一八號	第一七號	第一六號	第一五號
號	號	號	號	三浦三崎	秋谷	鎌倉	戸塚	金田	浦賀	横須賀
秘天第	秘天第	秘天第	秘天第	秘天第	秘天第	秘天第	秘天第	秘天第	秘天第	秘天第
至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號
			以	四	五	七	式	四	志	志
			上	式	式	式	式	式	志	志
			號	號	號	號	號	號	號	號
				式	式	式	式	式	式	式

卷三 第五号 第一

企文機受第二〇〇號

昭和十六年七月二十二日



企書院總裁官房文書課長



陸軍省機密文書取扱主任官 殿

昭和十六年七月二十一日附陸密第二一六八號ヲ以テ御送付相成候機密
文書別紙受領證、借用證、通り領收候也

如墨消

別紙書款掛保管



内閣

2596

(裁決) 行決 覽 回 後		帶 連		執行指定		局長委任		決裁指定		三年		保存期限	
長(部)局		長(部)局		大臣		委員		政務次官		受領番號		壹受第二九七六號	
長 課		長 課		局長事務主		高級副官		參與官		起元廳(課名)		司法部	
長 課		長 課		長課務主		主務副官		書記官		司法省		陸軍	
長 課		長 課		員課務主		大官房		主務局課		昭和三十四年六月拾四日		昭和三十四年七月一日	
長 課		長 課		了結		昭和三十四年六月拾四日		昭和三十四年七月一日		昭和三十四年六月拾四日		昭和三十四年七月一日	

司法部
司法研究第一部署務家會同招集二關之九件

政務官 書記官 回付(執行前)

(執行後)

審案 筆記者 陸軍

拾年係

軍務課第五三四號

次官ヨリ關東軍參謀長宛照會

(陸滿密)

首題ノ件ニ關シ司法省ヨリ別紙司法省調

第一九〇號寫ノ通申出アリタルニ付滿洲國

司法部關係者ノ參列方ニ關シ配慮相煩

シ度

追テ參列者決定ノ上ハ官氏名通報相成度

陸滿密第四八八號

昭和拾六年六月拾四日



陸軍省 二九七六

司法省調第一九〇號

昭和十六年五月十七日

司法省調査部長事務取扱
司法次官 三宅 正太郎

陸軍次官 木村 平太郎 殿

司法研究第一部實務家會同招集ニ關スル件

當省ニ於テ司法研究第一部第二十一回實務家會同ヲ來ル昭和十六年七月一日ヨリ同月三日迄三日間開催セラレベキ豫定ニ有之候ニ付滿洲國司法部職員ヲ參列セシムルノ御希望有之候ハバ御派遣相成度參列員御決定ノ上ハ其ノ所屬廳、氏名、職名等ヲ來ル六月三十日迄ニ御通知相



陸軍省

司法省

煩度此段及御照會候

尙右會同ノ實施要綱ハ別紙ノ通ニ有之候

日本標準規格B列四號

07

大日本帝國政府

〔別紙〕

司法研究第一部實務家會同實施要綱

第一、會同日程

日	時	八・〇〇—三・〇〇	一・三〇—五・三〇	出席會同員及議長
一日(火)	訓示挨拶	民事研究	民事研究	民事判事十名、刑事判事十名、調査部長主宰
二日(水)	刑事研究	檢察研究	檢察研究	檢察十一名、刑事判事十二名ノ内若干名(司法次官主宰)
三日(木)	協	議	報	告 全員

第二、會同ノ方法 各研究會同員(判事二十二名、檢察十一名)ヲシテ、豫メ割當テタル別掲研究題目ニ關シ研究ノ結果ヲ發表セシメ、質問及討論ヲ爲サシメ、尙報告事項ニ關シ報告ヲ爲サシム。

研究發表ハ一人ニ付二十分以内、質問及討論ハ一人ニ付十分以内ト

大日本帝國政府

ス。

研究題目及報告事項ノ研究會同員別割並ニ豫定時間左ノ如シ。

(2) 民事 (約五時間)

東京控訴院管内三 (内在京民事掛二)、大阪控訴院管内二、他管内各一 (約五時間)

(2) 檢察 (約六時間)

(1) 檢察 東京控訴院管内二 (内在京一) 他管内各一

(2) 判事 東京控訴院管内二 (内在京刑事係二ノ内一)、大阪控訴院管内一

(3) 刑事 (約六時間)

(1) 判事 東京控訴院管内二 (内在京刑事係二ノ内一)、大阪控訴院管内二、他管内各一

(2) 檢察 東京控訴院管内二 (内在京一)、大阪控訴院管内一

(4) 協議事項各員

大日本帝國政府

(5) 報告事項 各員

第三研究ニ對スル援助 會同員ヲナルベク速ニ決定シ、內定通知後ハ任地ノ異動ハ會同出席ニ影響ナキコトトス。非在京者ニシテ研究室所藏ノ圖書ニ付借覽希望ノ者ニ對シテハ、一人一時ニ五冊ヲ限り研究室ニ支障ナキ限り送付貸與ノ便宜ヲ與フルコトトス

第四研究題目

(一) 小額民事訴訟事件ノ取扱ニ付テ

民事訴訟事件ハ近來激減ヲ見テ居ルガ、訴訟ノ進行狀況ニ付テハ著シク改善セラレタリトハ謂ヒ得ナイ。固ヨリ訴訟物ノ價額ノ大小ハ事實ノ認定及法律ノ適用上ニ於ケル難易ノ問題ト必ズシモ比例シナイノデアアルガ、尠クトモ小額ノ訴訟事件ノ如キハ特ニ迅速ナル解決ヲ必要トスルモノガ多イト思ハレル。然ルニ、現行ノ手續法及訴訟ノ實際ノ上ニ於テハ、小額事件ニ付テ特別ナル考慮ガ拂ハレテ居ラヌ。審理ノ確實ト事實認定ノ正確

大日本帝國政府

ヲ保障シツツ、然モ迅速ナル事件ノ處理ト訴訟費用ノ蠲減ヲ目
標トシテ、小額訴訟事件ノ特別手續ヲ設ケル必要ガアリハシナ
イカ。民事訴訟ノ手續ノミガ依然舊態ヲ保持スルコトハ、現下
内外ノ緊迫セル情勢下ニ於テ司法ノ使命ヲ保ツ所以ニ非ズト思
料セラレル。此ノ趣旨ニ於テ小額訴訟事件ニ付特別ナル手續ヲ
創設スベシトセバ、其ノ制度ハ如何ニ構成セラルベキカ、其ノ
具體的ナル提案ヲ得ンコトヲ期待スル。

(一) 刑事裁判手續ノ簡易迅速化ニ付テ
夫レハ捜査ノ困難ナル案件上
民事訴訟ニ於ケルト同ジク、刑事訴訟ニ於テモ其ノ處理ノ方
式ハ總テ一律ニ行ハルテキル。刑事裁判手續全體ノ能率化ヲ圖
ル爲ニ、取ル種ノ事件ニ付特別ナル手續上ノ考慮ヲ拂
フノ途ハナイデアラウカ。現行略式命令制度ノ改正（略式命令
ヲ爲シ得ル範圍ノ擴張ヲ含ム、又滿洲國ニ於テ見ルガ如キ略式
判決手續ノ批判等）、關席判決手續ノ一般化、區裁判所ノ事務

大日本帝國政府

管轄ノ擴張證據書類ノ證據力、上訴制限、判決書ノ問題等種々ノ提案ガ爲サレテ居ルガ、緊要ナリト思料セララルル事項ニ付具體的ナル意見ノ開陳ヲ期待スル。

(三) 捜査手續ニ於ケル強制力ノ問題

去ル第七十六回帝國議會ニ於ケル國防保安法制定及治安維持法改正ニ依リ檢事ノ捜査ニ於ケル強制力ガ擴張セラレタ。從來捜査ノ手續トシテハ法制上原則トシテ任意手段ガ認ノラレテ居ルニ過ギナイガ、實務ノ立場カラ夫レハ捜査ノ圓滿ナル遂行上難キヲ強ヒルモノトセラレタノデ今回特殊ノ罪ノ手續ニ付飛躍的ノ發展ヲ見タ譯デアル。將來ノ立法問題トシテ之ヲ全刑事手續ニ付一般化セシムベキカ、或ハ一部ノ手續ニ制限スルトセバ如何ナル程度及範圍ニ止ムベキカ。行政檢束ノ實情、豫審構造ノ問題、書類ノ證據力ノ問題等ト關聯シテ具體的ナル意見ノ開陳ヲ期待セントス。

大日本帝國政府

第五協議事項（第三日午前）

「裁判上ノ用語ノ改善ニ付テ」

法文ノ字句ノ難解ト共ニ裁判上ノ用語ノ難澁ナルコトハ周知ノトコロニ屬スルノデ、其ノ改善方策ノ一トシテ判決ノ口語化ガ提唱セラレ、一部ニ於テ夫レガ實行ニ移サレテカラ既ニ久シイモノガアルガ、夫レハ猶一小部分ニ過ギズ、多クハ舊來ノ態樣ヲ維持シテ、裁判ニ直接利害關係ヲ有スル一般民衆ニハ一向ニ親シマレテ居ラヌモノノ如クデアアル。事變下ニ於テ舉國一致ガ呼バレ、司法ニモ所謂新體制ノ樹立ガ要求サレル今ニ於テ、裁判ノ眞意ガ理解シ易イ形ヲ採ツテ訴訟ノ當事者ニ直接滲透シタナラバ、最も效果的ニ司法ノ威信ヲ昂メ得ルノデハナカラウカ。判決ノミナラズ、調書起訴狀其ノ他ノ書面ニ付テモ同様ノコトガ考ヘラレルノデ、口語化ノ問題ヲ中心トシテ用語ノ改善ニ付各位ノ意見ヲ求メントス。

追而會同日程變更ノ結果、(一)第一日ハ民事研究ト檢察研究ト班ヲ別ツ

大日本帝國政府

關係上、刑事掛判事十二人中東京控訴院管内二名（内一在京者）及大阪控訴院管内一計三名ヲ除キタル他ノ九名ハ其ノ希望ニ應ジ、民事研究又ハ檢察研究ノ何レカニ出席シ、研究員ノ意見發表ニ對シ質問及討論ヲ爲サシムルコトト相成ルニ付、其ノ何レニ出席ヲ希望スルモノナリヤ、豫メ研究会同員ノ希望ヲ御上申相成度

第六報告事項——今次事變ノ影響ニ因リ一般司法事務上現行法律ノ適用ニ當リ不便ヲ感ジタル事例ノ報告ヲ求メ、併セテ對策上ノ意見ヲ求ム。

最近ノ第七十六回帝國議會ニ於テ、民法中改正・戶籍法中改正・非訟事件手續法中改正・借地法及借家法中改正・陪審法中改正及刑法中改正等ノ法規整備ノ實現ヲ見タ。此等ハ事變ノ對策的色彩ヲ有スルモノデアルガ、事變ノ長期化・擴大化ノ憂ヘラルル現在ニ於テ、統後ノ權義保全及治安維持ヲ第一義トシテ高度國防國家建設ノ途上ニ於ケル障礙ノ報告ヲ求メ、且之ニ對スル具體的ナル對策ノ開陳ア

大日本帝國政府

ラシヤトテ期待スル。

政務官回付(決行前)

(決行後)

審案
筆記者



陸

軍

(裁決) 行決 覽 回 後		連 帶		決行指定		決裁指定		保存期限	
長(部)局		長(部)局		大臣		件名		番受 號領	
				委		司法研究第一部長事務家會同招集ニ關スル件		壹第 二九七六號	
				政務次官				起元應(課名)	
				委				司 法 省	
長 課		長 課		主務局長		官副級高		官與參	
				主務課長		副官		書記官	
				主務員					
				大臣官房		主務局長		番號	
				昭 和 年 月 日		昭 和 年 月 日		昭 和 年 月 日	
				昭 和 年 月 日		昭 和 年 月 日		昭 和 年 月 日	
				昭 和 年 月 日		昭 和 年 月 日		昭 和 年 月 日	

次官ヨリ司法次官宛回答（陸滿答）

五月十七日附司法省調第一九〇號ヲ以テ御

照會ノ首題ノ件ニ關シ滿洲國ヨリ左記

ノ者出席可致旨申越有之候ニ付御承知

相成度

左記

司法部理事官
民事司第二科長

土肥 三郎

利

安東正檢察廳檢察官

高島

茂

圖書第五三五號

昭和拾六年六月廿八日

陸軍

圖書第五三五號

滿秘人

壹二五八

關參滿發第二五二八號



司法研究第一節實務家會同招集ニ關スル件回答

昭和拾六年六月廿四日

關東軍參謀長 吉本貞一

陸軍次官 木村兵太郎 殿

六月十四日附陸滿密第四八八號ニ依ル首題ノ件
ニ關シ滿洲國例ヨリ左記ノ者ヲ參列セシムヘキ
ニ付可然取計ハレ度

左記

司法部理事官
民事司第二科長
檢察官
安東區檢察廳檢察官

土 昭 三 郎
高 島 茂

滿秘人

寫

關參滿發第一五二八號

司法部研究第一部實務家會同招集關スル件回答

昭和六年六月廿四日

關東軍參謀長 吉本貞一

陸軍次官 木村兵太郎 殿

六月十四日附陸滿密第四八八號ニ依ル首題ノ件
ニ關シ滿洲國例ヨリ左記ノ者ヲ參列セシムヘキ
ニ付可然取計ハレ度

左記

司法部理事官

土 昭 三 郎

民事司第二科長

高 島 茂

檢 察 官

安東區檢察廳檢察官

陸軍

保存期限

三年

決裁指定

局長

決行指定



二

政務次官 回付 決裁前後連帶
參與官 課名



決行(決裁)後
回覽課名

受領番號

壹第一九九四号

起元廳(課)名

海軍省

件名

九九式短小銃圖面及同検査格例送付ノ件

大臣 手

政務次官

次官 手

主務局長

伊

參與官

高級副官

主務課長

伊

書記官

主務副官
官房御用掛
計

主務課員

審案
筆記者

伊

主務局長

受領番號

銃一第一二六号

提出

昭和十六年四月三日

大臣官房

受領

昭和十六年六月廿八日

昭和十六年六月廿八日

了結

昭和十六年七月二日

連帶

局長

決行(決裁)後
回覽

局長

長課

長課

官

官

陸普 副官より海軍省副官へ通牒

四月二十日附官房機密第三五一八号ヲ以テ照會相成候旨
題ノ件左記ノ通送付候也

左記

一九九式短小銃圖面(二十三枚)

一同 検査格例

各貳部

陸普第四八九三號 昭和拾六年六月卅日



秘

官房機密第三五一八號

昭和十六年四月二十二日

陸軍省副官 川原直一殿

海軍省副官 中村勝平

九九式短小銃製造用圖面其ノ他讓受度件照會
首題ノ件左記ノ通讓受度候條可然取計相成度

記

九九式短小銃製作用圖面

九九式短小銃圖面

九九式短小銃兵器採用檢査格令

各二部

(終)

第一九四

陸軍省
昭和十六年四月二十三日
16.4.23

陸軍省
16.4.23
第26號
銃砲課

(森市納) 館

海軍

保存期限

永久

決裁指定

本部責任

決行指定

原

三 號

政務次官

回附 決裁 前連帶

燃料課

決行(決裁)後 回覽 課名

受領 番號

壹第〇一六號

起元廳(課)名

航空局

件名

工子ルフルード委託調弁ニ關スル件

大臣

委

委

高級 副官

主務副官 官房御用係 計

政務 次官

參與官

書記官

審案 筆記者

本部長

總務部長 主務部長

庶務課長 主務課長

副官

主務部長

主務員

主務局 課

受領 昭和 年 月 日

連帶 局長

主務局長

大臣官房

受領 昭和 年 月 日

決行(決裁)後 回覽 局長

主務局長

拾年條

陸軍

陸普

陸軍省副官ヨリ航空局長官へ

通牒

四月十五日附空總第五五九號ニ係ル首題ノ件ハ陸軍航空本部ヲシテ調弁方取計ハシメラルルニ付承知相成度追テ取得期日ハ八月以降ニシテ且之カ製造ニ要スル物資ハ航空局配當ノモノヨリ充當セラレ度為念申添テ

陸普第四九〇八號

昭和拾六年六月卅日

陸普

陸軍省副官ヨリ陸軍航空本部長へ

通牒

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通願出アリタルニ付調弁方取計ハレ度依命通牒ス

陸普第四九〇八號

昭和拾六年六月卅日





大日本帝國政府

航空局陸軍兼任事務官經由

空總五五九號

昭和十六年四月十五日

三三六

航空局長官

陸軍次官殿

實



當局主管航空事業運營上必要ナルエチール、フルード左記ノ通調辨方
乍御手數御配慮相煩度此段及御依頼候

エチール、フルード委託調辨ニ關スル件

記

一 調辨品目 員數 希望納期

内譯

品目	員數	備考
エチール、フルード	三、〇〇〇立	航空局ノ分 大日本航空株式會社ノ分 二、八〇〇〇立

大日本帝國政府

三、現品納入場所

山口縣下松市

日本石油株式會社下松製油所（六本）

橫濱市鶴見區安全通

日本石油株式會社鶴見製油所（九本）

三、經費支辨

需要ノ別ニ應ジ航空局又ハ大日本航空株式會社ニ於テ夫々負擔

四、本件契約ハ凡テ貴省契約様式ニ依リ代金支拂ハ物品完納後トセラレ
度

五、本件經費ハ豫算ノ性質上年度内ニ支拂完了スル如ク契約セラレ度尙

契約者代理人ナル場合ハ委任狀ヲ添付セシメラレ度

六、納期内物品ノ完納ニ至ラザルモノニシテ納期延伸ヲ認メラレタル場

合ハ必ズ有償無償ノ認定書添付相成度

七、納期ハ可及的速カナルヲ希望ス

官房控

寫

別紙

航空局兼任事務官經由

航空部

陸

軍

空總五五九號

昭和十六年四月十五日

航空局長官

陸軍次官殿

エチール、フルード委託調辨ニ關スル件

當局主管航空事業運営上必要ナル「エチール、フルード」左記ノ通
調辨方乍御手数敷御配慮相煩度此段及御依頼候

記

一、調辨品目 員數 希望納期

内 譯

品 目 員 數

備

考

エチール、フルード 三、〇〇〇立

航空局ノ分
大日本航空株式會社ノ分

三、八〇〇立

一、現品納入場所

山口縣下松市

日本石油株式會社下松製油所（六本）

横濱市鶴見區安全通

日本石油株式會社鶴見製油所（九本）

二、經費支辨

需要ノ別ニ應シ航空局又ハ大日本航空株式會社ニ於テ夫々負擔

四、本件契約ハ凡テ貴省契約様式ニ依リ代金支拂ハ物品完納後トセラレ度

五、本件經費ハ豫算ノ性質上年度内ニ支拂完了スル如ク契約セラレ度

尙契約者代理人ナル場合ハ委任狀ヲ添付セシメラレ度

六、納期内物品ノ完納ニ至ラサルモノニシテ納期延伸ヲ認メラレタル

場合ハ必ス有價無價ノ認定書添付相成度

七、納期ハ可及的速力ナルヲ希望ス

昭和十六年四月二十五日

案 第 四 號

政 府 令

回 覽

大 日 本 帝 國

批 閱

航空局陸軍兼任事務官由

空保第二七七號

拾年保

昭和十六年六月七日

16.6.21

16.6.29

航空本部
16.6.23
受付

受付
16.6.28
第一部

陸 軍 次 官 殿

航 空 局 長 官

陸軍省
16.6.27
交通課

陸軍省
16.6.24
軍事課

陸軍省
16.6.25
防衛課

非公共用石岡飛行場使用開始ニ關スル件

今般首題飛行場竣功致候ニ付大日本飛行協會ニ對シ昭和十六年六月七日以降左記一ノ條件ニ依リ使用方許可相成候條御了知相成度

追而航空法施行規則第八十八條ノ規定ニ依ル告示ハ都合ニ依リ之ヲ爲サズ本通牒ヲ以テ告示ニ代ヘタルニ付本飛行場概要ハ左記ニ依御了知相成度爲念申添候

記

一、飛行場使用條件

- (一) 石岡飛行場ヲ使用スル飛行機竝ニ滑空機ノ行動區域ハ羽鳥驛及足尾山（六二七米）ヲ通ズル線以南、常盤線鐵道線路以西竝ニ石岡驛及常陸北條驛ヲ通ズル線以北ニ於テ高度四百米以下トス
但シ高度四百米以上ノ飛行又ハ滑空ハ豫メ第十一聯合航空隊ノ同意ヲ得テ之ヲ實施スルコトヲ得
- (二) 大日本飛行協會所屬滑空機曳航用飛行機以外ノ飛行機ニ對シテ本飛行場ヲ使用セシメントスル場合ハ豫メ第十一聯合航空隊ノ同意ヲ得ルヲ要ス
- (三) 夜間飛行又ハ夜間滑空ハ行ハザルモノトス
- (四) 飛行機ノ飛行ハ單獨タルト曳航タルトヲ問ハズ豫メ第十一聯合航空隊司令部ニ通報スルヲ要ス
- (五) 海軍ニ於テ空中管制ノ必要上本飛行場ニ對シ一時飛行停止又ハ滑空停止ノ要求アル場合ハ直ニ之ニ應ズルヲ要ス
- (六) 前各項ノ詳細ニ關シテハ第十一聯合航空隊ノ定ムル所ニ依ル

(七) 本飛行場ニ於テ使用シ得ヘキ飛行機ハ練習機及ソアラ一曳航用飛行機程度ニ限ルモノトス

二、飛行場概要

(一) 設置ノ目的 非公共用

(二) 經營者ノ氏名又ハ名稱及住所 財團法人大日本飛行協會 東京市芝區田村町一丁目三番地

(三) 用地所有者ノ氏名又ハ名稱及住所 財團法人大日本飛行協會 東京市芝區田村町一丁目三番地

(四) 飛行場名及所在地 大日本飛行協會石岡飛行場 茨城縣新治郡石岡町字半ノ木

(五) 陸上、水上又ハ水陸兩用飛行場ノ別 陸上飛行場

(六) 面積及地形 總面積 二七〇、七五九坪

滑走區域 東北東八五〇米

滑走區域ノ地表面ハ野芝密生シ概ネ平坦ナルモ南ヨリ北ヘ若干ノ勾配ヲ以テ傾斜ス

(七) 恒風位置 夏期概ネ北風又ハ南風、冬期概ネ北東風

(八) 設備ノ概要 格納庫 (間口約三米、奥行約三米) 三

事務所 一

(九) 設

置

期

間

宿 炊 整 倉 車
事 備 庫 庫
場 場 庫 庫
等 場 場 庫
舍 等 場 庫
自昭和十六年六月三日
至昭和二十六年六月二日

— — — — —

七月二日

五

秘

檢査保

檢査保

三三四

昭和十六年六月二十五日

米二祕合第二四六九號

昭和十六年六月二十五日

外務次

陸軍次官殿

伯國對外關係情況報告ノ件

本件ニ關シ今般在伯石射大使ヨリ別添寫ノ通り報告越セルニ付御
参考迄右茲許送付ス

本信送付先 陸軍次官、海軍次官、參謀次長、軍令部次長

別紙添附

陸軍省 16.6.27 997 軍務課

外務省 陸軍次官

外務省

寫

昭和十六年三月二十六日

在伯

特命全權大使 石射 猪太郎

臨時外務大臣
事務管理 公爵 近衛 文麿 殿

伯國對外關係情況報告ノ件

本件ニ關シ別紙ノ通り報告ス委細右ニテ御了承相成度

外務省

公機密第六一號別紙

伯國對外關係情況

一、歐戰ニ對スル伯國ノ態度

伯國ハ中立ヲ標榜シ居ルモ歐洲諸國トノ貿易杜絶以來自國原料品ノ賣込乃至ハ武器、交通機關資材、機械類、藥品等ノ輸入ハ悉ク米國ニ求メサルヲ得サルニ至レル實情ヨリ從來ノ對米依存關係ハ一層拍車ヲ掛ケツツアリ此ノ弱點ハ又屢米國ニ利用セラレ心ナラスモ米國ノ樞軸國苛メニ參加セサルヲ得サルコトハ注意ヲ要スヘク過般ノ重要物資輸出許可制度ノ如キハ其ノ好例ナリ

尤モ米國側ノ橫暴振リニ對シテハ有識階級ハ反感ヲ有シ殊ニ當國陸軍ハ元來反米親獨ニシテ最近「シケーラ・カンボス」號事件以來續發セル英側ノ伯船抑留事件モアリ軍部ノ反英米氣分ハ深マリツツアルコトハ見逃スヘカラサル所トス

現在伯國政府部内ニ米國勢力ニ迎合セントスル米國派ト之ニ反對

スル派トアリテ前者ハ外相、藏相、後者ハ陸軍ナリトス此ノ二個ノ對立關係ハ歐洲戰爭ノ推移ニ伴ヒ伯國ノ對外的態度ニ微妙ナル影響ヲ與ヘ獨優勢ノ場合ニハ軍部ノ發言權強ク大統領ヲシテ獨的言辭乃至ハ態度ヲ採ラシムルニ至ルヘシ客年六月獨ノ對佛作戰成功直後當國大統領ノ爲シタル獨的演說カ米側ニ「センセイシヨン」ヲ與ヘタルコトハ今尙耳目ニ新ナル所ナリ

二、米伯關係

(イ) 米ハ元來自國品輸出先トシテノ南米市場ヲ重視シ獨ノ經濟進出ヲ苦ニシ之カ對抗策トシテ輸出入銀行長期「クレディット」設定ニ依ル自國品賣込ヲ策シ今尙之カ強化ニ進ミツツアル次第ナルカ最近軍備擴張ヲ急クニ至ルヤ軍用物資ノ不足ヲ感シ南米ニ於ケル買付乃至ハ確保ニ狂奔シ伯國ニ於テハ水晶、雲母、工業用「ダイヤ」、「マンガン」、「ゴム」、「キニーネ」ヲ求メツツアリ尙新聞ニ依レハ日本側買付ヲ邪魔スル爲有效ナル方

法研究中ノ由ナリ既述重要物資輸出許可制モ表面ハ米品再輸出防止ト謂フモ實際ハ臨機伯國ヲ壓迫シテ我方買付ヲ防止セントスルノ素地ヲ作りシモノト認メラル

伯國産工業「ダイヤ」ノ如キハ僅カニ數十万弗ヲ以テ買占メ得ヘキ由ナルニ付我方モ早キニ及ンデ此等物資ノ獲得ヲ爲スノ要アル次第ナリ

尙三月十七日紐育「エービー」電ニ依レハ米商務長官ノ提議ニテ工業及財政方面専門家二十八名伯、亞、智、祕等トノ協定可能性調査ノ爲出發セル由ナリ

(ロ) 最近當地新聞ハ責任アル官邊ヨリノ消息トシテ伯國政府カ約四十隻計リノ伯國^港繫留外國船徵用ノ意アル旨ヲ發表セルカ半官紙「ノイテ」ハ翌日之ヲ否定セリ本件徵用問題ハ客年十一月英國「ウイリンドン」卿來伯ノ際持チ上リ同卿ヨリ之カ實行方^近從^近通セルカ最^近ハ米國ヨリ同様ノ趣旨ノ壓迫加ハリツツアル趣

ナリ客年六月伊國參戰當時伊ハ自國船賣却ノ意アリ伯國船會社ニ交渉中ナリシカ最近ハ獨トノ關係モアリ之カ賣却ヲ斷念セルモノノ如シ

(ハ) 米ハ其ノ必要トスル重要物資中「ゴム」、「キニーネ」、桐油其ノ他カ東亞時局ノ不安定ヨリ輸入不能トナルヲ惧レ目下伯國ニ専門技師ヲ派遣シ栽培方研究セシメ居レリ

(ニ) 客年中頃迄ハ米艦ノ來伯頻繁ナリシカ最近其ノ訪問ヲ見サル處右ハ時局ノ關係上何レモ戰略的地點ニ廻サレ遠距離ノ當方面迄ハ手カ及ハサルモノト認メラル

(ホ) 米ハ今猶文化工作ヲ忘レス最近大學教授（「リオ」、聖市法科大學）二名招待セラレタリ

戰爭ノ關係上實業家ノ外米人觀光客カ増加セルコトモ一現象ニシテ就中藝術家、學者、新聞記者最モ多シ

三、英伯關係

英ハ米ノ進出ニ依リテ漸次其ノ經濟的地盤ヲ奪ハレツツアルヤノ感アリ、殊ニ最近ハ「シツケイラ・カンボス」號事件以來軍部ノ感情ヲ害シ宣傳局ハ軍部ノ壓迫ノ下ニ今尙反英記事ヲ新聞ニ強制シ居レリ尤モ英側ハ古クヨリ有力新聞トノ連繫アリ開戦以後ハ相當金モ費シ居ル爲新聞モ宣傳局ノ命ニ拘ラス目立チタル反英記事ハ掲載セス

英ノ宣傳「ニュース」 OLYMPIC JOURNAL ハ獨ノ「ウーファ」

「ニュース」ニ對抗シ映畫館ニ上映セラレ戦争乃至ハ銃後國民活動風景ヲ取扱ヒ居ルモ米國系「ニュース」ト軌ヲ一ニシ清鮮ノ氣分漲リ獨ノ「ニュース」ヨリモ氣受ケ宜敷キ様見受ケラル

四、對獨、伊關係

獨ノ對伯工作概況ハ既報ノ通ナルカ伯國政府側トシテモ獨逸側勝利ノ場合ヲ考慮シ無暗ニ英米ノ傘下ニ走ルコトヲ差控フルト共ニ獨ニ對スル態度ハ極メテ慎重ト見ルヲ得ヘシ從テ以前盛ニ攻撃セ

ラレタル獨系南方移民ノ問題ハ新聞ヨリ姿ヲ消シ「ロイテル」、
「エー・ピー」、
「ユー・ピー」等反獨的不遠慮ノ國際「ニュー
ス」ハ何レモ掲載禁止トナリ居レリ
伊政府ハ南米ニ於ケル活動中心ヲ「リオ」大使館ニ置キ物資購入
各方面ヘノ工作、公館員給與支拂等何レモ當地大使館力取扱ヒ館
員ノ手不足ニテ轉手古舞ヲ爲シ居レリ一九三五、六年「エチオピ
ア」戦争ノ際ニハ在伯伊人三百万人ハ本國ノ爲相當騒キタル由ナ
ルカ目下伯國政府ノ監督嚴ナル爲カ何等動搖ノ跡ナシ他方希臘、
「リビア」兩方面敗戦ノ報頻リニ至リ當國民モ從來ニ比シ一層伊
國人ヲ蔑視スルノ氣分窺ハル

保存期限

決裁指定

局長委任

決行指定



大

第

政務次官回付

決裁前後連帶

醫事、軍事、軍務

決行(決裁)後
回覽課名

陸軍省
16.6.30
軍事



受領番號

✓ 壹 第三一三三號

起元廳(課)名

軍事保護院

件名

傷痍軍人國民學校訓導養成所並傷痍軍人國民學校初等科訓導養成所入所
志願者身體検査ニ關スル件

大臣委

次官委

政務次官

參與官

書記官

審案
筆記者

主務局長

主務課長

主務課員

高級副官

主務副官
官房御用掛
計

主務局長
受領
昭和六年七月壹日
提出
昭和六年七月壹日
大臣官房
了結
昭和六年七月三日

連帶局長

課長



代
局長

課長

主務課員

審案
筆記者

陸普

副官ヨリ西部軍、仙台、姫路、金澤、大阪

師團參謀長宛通牒案

首題ノ件ニ關シ軍事保護院ヨリ依頼アリタルヲ以テ別紙身體検査醫官派遣區分表ニ依リ最寄部隊ヨリ適任ノ醫官一名派遣相成度依命通牒ス

追テ細部ニ關シテハ關係養成所ト協議相成度申添フ

陸普第四九六〇號 昭和拾六年七月壹日

副官ヨリ軍事保護院業務局長宛通牒案

六月十七日附業發第六四〇號ニ係ル首題ノ件別紙身體検査醫官派遣區分表ノ通醫官各一名宛派遣方通牒致シタルニ付承知相成度通牒ス

陸軍

追テ細部ニ關シテハ各養成所ヨリ關係軍（師團）ニ協議セシメラ
レ度申添フ

陸普第四九六〇號

昭和拾六年七月壹日



身體檢查醫官派遣區分表

陸軍

身體檢查日時	身體檢查場所	醫官派遣區分
八月二十九日 午前八時ヨリ	(イ) 仙台市北七番町宮城縣師範學校内 傷痍軍人國民學校訓導宮城養成所	仙台師團
	(ロ) 岡山市門田岡山縣師範學校内 傷痍軍人國民學校訓導岡山養成所	姫路師團
	(ハ) 小倉市富野福岡縣小倉師範學校内 傷痍軍人國民學校訓導福岡養成所	西部軍
	(ニ) 福島市腰之濱福島縣師範學校内 傷痍軍人國民學校初等科准訓導福島養成所	仙台師團
	(ヒ) 金澤市彌生町石川縣師範學校内 傷痍軍人國民學校初等科准訓導石川養成所	金澤師團
八月二十六日 午前八時ヨリ	(イ) 和歌山市眞砂町和歌山縣師範學校内 傷痍軍人國民學校初等科准訓導和歌山養成所	大阪師團
	(ロ) 松江市外中原町島根縣師範學校内 傷痍軍人國民學校初等科准訓導島根養成所	西部軍

(六) 大分市駄原大分縣師範學校內
傷痍軍人國民學校初等科准訓導大分養成所

西
部
軍



業發第六四〇號

昭和十六年六月十七日

軍事保護完業務局長

陸軍省副官 殿

陸軍省第三十三號



傷痍軍人國民學校訓導養成所並傷痍軍人國民學校
初等科准訓導養成所入所志願者身體檢查ニ關スル件
標記各養成所ニ於テ左記ニ依リ入所志願者ノ身體檢查執行致候條志願者ノ傷痍
ノ程度査定ニ關シ最奇師團ヨリ醫官一名御派遣相成度此段及依願候

記

一 傷痍軍人國民學校訓導養成所ノ身體檢查

(1) 身體檢查日時 八月二十九日午前八時ヨリ

(2) 身體檢查場

(1) 仙台市北七番町宮城縣師範學校内

軍事保護院

規格 B 5

湯夷軍人國民學校訓導宮城養成所

(四)岡山市門田岡山縣師範學校內

湯夷軍人國民學校訓導岡山養成所

(五)小倉市富野福岡縣小倉師範學校內

湯夷軍人國民學校訓導福岡養成所

三、湯夷軍人國民學校初等科准訓導養成所ノ身體検査

(1)身體検査日時

八月二十六日午前八時ヨリ

(2)身體検査場

(イ)福島市腰之濱福島縣師範學校內

湯夷軍人國民學校初等科准訓導福島養成所

(ロ)金澤市彌生町石川縣師範學校內

湯夷軍人國民學校初等科准訓導石川養成所

(ハ)和歌山市真砂町和歌山縣師範學校內

湯夷軍人國民學校初等科准訓導和歌山養成所

(一) 松江市外中原町島根縣師範學校內

傷夷軍人國民學校初等科准訓導島根養成所

(二) 大分市駄原大分縣師範學校內

傷夷軍人國民學校初等科准訓導大分養成所

軍事保護院

第七號

保存期限 三年 決裁指定 局長 決行指定

大官大臣		大臣委		件名	番號	受領	政務次官 回付 決裁前 後連帶 課名	
了結	領受	出提	領受					軍用資源秘密保護法ノ立案ニ關スル件
昭和	昭和	昭和	昭和	起元應(課)名	鐵道省	決行(決裁)後 回覽課名	陸軍	
年	年	年	年					鐵道省
七月三日	七月一日	七月壹日	七月壹日					鐵道省
防衛甲第三四〇號		防衛甲第三四〇號		鐵道省		陸軍		
局長		局長		書記官		陸軍		
課長		課長		審案		陸軍		
主務局長		主務局長		審案		陸軍		
主務副官		主務副官		審案		陸軍		
主務課員		主務課員		審案		陸軍		

陸軍

陸密 大臣ヨリ鐵道大臣へ回答

六月二十四日附鐵軍秘第一九二號ヲ以テ御申越ニ係ル
首題ノ件一當方ニ於テハ差支無之別紙ノ通承認證
及送付候

陸密第一八七二號

昭和拾六年七月壹日

陸密 副官ヨリ陸軍兵器本部總務部長へ通牒

首題ノ件ニ付別紙甲號ノ通申請アリタル所承認
セラル別紙乙號ノ通承認證ノ交付セラレタルニ付承
知相成度

陸密第一八七二號

昭和拾六年七月壹日

鐵軍秘第一九二號

昭和十六年 六月廿四日

鐵道大臣 小川 鄉 太

郎

陸軍大臣 東 條 英 機 殿
海軍大臣 及 川 古 志 郎 殿

(連名各通)

立入承認申請書

左記ノ通立入致サセ度ニ付承認相成度候也

記

一、目的 省註文品ノ製作監督並ニ検査執行ノ爲

二、立入工場 株式會社日本製鋼所室蘭製作所

機械工場、材料試驗室、第一鍛鍊工場、鍛冶工場、鑄鋼工場



三期間 自昭和十六年七月一日起至昭和十七年六月三十日

四、立入者官職氏名

札幌鐵道局工作部車輛課長

技師 松田都一

鐵道省工作局工場課

技手 御廚三好

別紙甲號

控

陸軍

鐵軍祕第一九二號

昭和十六年六月二十四日

鐵道大臣 小川 郷太郎

陸軍大臣 東條 英機 殿

海軍大臣 及川 古志郎 殿

(運名各通)

立 入 承 認 申 請 書

左記ノ通立入致サセ度ニ付承認相成度候也

記

一、目的 省註文品ノ製作監督並ニ検査執行ノ爲

二、立入工場 株式会社日本製鋼所室蘭製作所

機械工場、材料試験室、第一鍛鍊工場、鍛冶工場、鑄

鋼工場

寫

三期

間

自昭和十六年七月一日
至昭和十七年六月三十日

四立入者官職氏名

札幌鐵道局工作部車輛課長

技師

松

田

都

一

鐵道省工作局工場課

技手

御

廚

三

好

寫

一、目的 鐵道省註文品ノ製作監督並ニ検査執行ノ爲

一、行爲ノ種類 立 入

一、工場事業場其他ノ設備ノ所在地及名稱

北海道室蘭市茶津町四
株式會社日本製鋼所室蘭製作所

一、事項（圖書物件）

當省管轄鐵道機械工場、材料試驗室、第一鍛鍊工場、鍛冶工場、鑄鋼工場

等印刷時期自昭和十六年七月一日至昭和十七年六月三十日

一、方法（使用器具類ノ名稱）

一、圖書物件ノ員數

一、條 件

發 行 部 門 日 交 付

限 製 印 行

寫

別紙乙號

第 三 十 號 昭 和 十 六 年 七 月 一 日 交 付

陸 軍 省

軍用資源秘密保護法施行規則ニ依ル

一 工 務 課 長	住 所
一 技 術 課 長	職 道 省 工 作 局 工 場 課
一 技 術 課 長	名
一 技 術 課 長	技 手 御 厨 三 好
一 目 録	年 齡

一、目的 鐵道省註文品ノ製作監督並ニ検査執行ノ爲

一、行爲ノ種類 立 入 姓 平 商 商 三 技

一、工場專業場其他ノ設備ノ所在地及名稱

北海道室蘭市茶津町四
株式會社日本製鋼所室蘭製作所

一、事項（圖書物件）

新館工務部、機械工場、材料試驗室、第一鍛鍊工場、鍛冶工場、鑄鋼工場

一、申請時期（時期）自昭和十六年七月一日至昭和十七年六月三十日

一、方法（使用器具類ノ名稱）

一、圖書物件ノ員數

一、錄 件

鐵 道 省 註 文 品 製 作 監 督 並 二 檢 査 執 行 爲

憑

八

南

軍務

秘

閱

七月三日

中村

南

南

三三三二

三三三二

通五秘合第二四九二號

昭和十六年六月二十六日

陸軍次官殿

外務次官

昭和十六年六月二十六日

陸軍省 16.5.2. 1000 軍務課

16.5.2. 1000 軍務課

米國輸出統制ノ比島實施ニ關スル件

本件ニ關シ今般在馬尼刺新納總領事ヨリ別紙寫甲號及乙號ノ通電
報アリタルニ付右茲ニ送付ス

本信送付先 商工省、大藏省、拓務省、陸軍省、海軍省

企畫院

外務省

寫

甲號

松岡外務大臣宛在馬尼刺新納總領事發電報寫

六月二十三日

比島ニ於ケル「ハイコンミツシヨナー」府ハ六月二十一日接到ノ訓
令ニ依リO、T、Y、以外ノ馬尼刺麻日本向ケ輸出許可申請全部ヲ
不許可ト爲シ英國領域向ケハ許可シツツアル趣營業者ヨリノ通知ニ
接シタリ

外
務
省

六月二十四日着

松岡外務大臣宛在馬尼刺新納總領事發電報寫

本官「ワイロビー」ヲ往訪質シタル處拒否ニ決シタルハ米本國ノ訓令ニ依ルモノナルカ右ハ英國及米國ノ需要大ナルニ依ルモノト想像ス尙「クローム」續ハ品位ノ如何ヲ問ハス滿俺續ハ品位三五%以上ノ場合輸出ヲ許可セサルコトニナリ居レリ低級麻及鐵續ニ付テハ從來通り許可ヲ與フ但シ右ハ恒久不變ノ方針ニ非ス情勢ノ如何ニ依リ改變セラルコトアルヘシ鐵續ニ付一部許可セサルモノアルモ右ハ遠キ將來ニ對スル「コンミット」ヲ避ケントスル爲ト許可數量ノ會社向ケ不均衡ヲ防止セントスル爲ニ過キストセルニ付テハ標準ヲ過去ノ數字ノミニ置カス其ノ後ノ擴張ヲモ考慮セサルヘカラサルコトヲ指摘シタルニ近ク船ノ來航スルコトトナレルモノニハ總テ許可ヲ與ヘ居レリトセリ尙本官ヨリ米國側不許可ノ範圍ハ過大ニシテ正常貿易ヲ出來得ル限リ阻害セサル様運用スヘシトノ方針ニ合致セス之ハ

全ク本官ノ期待ニ反シ大部分ノ對日輸出ヲ阻止スルモノナルニ付日本側トシテモ配船ヲ考慮セサルヘカラス延イテハ米國ノ比島産品取得ニモ影響ヲ及ホスヘキコトヲ指摘シ「ハイコンミツシヨナー」府ヨリ再考慮方電報アリタシト述ヘタルニ比島ニ及ホス影響ニ付テハ時々電報シ居ルモ米本國ニテハ米英ノ軍需、極東情勢其ノ他諸般ノ條件ヲ考慮シテ其ノ方針ヲ決定シ居ルモノナレバ直接在米大使館ヲシテ申入レラナサシムルコト有效適切ナル策ナリト語レリ

陸普

副官ヨリ同盟通信社々長古野伊之助へ通牒

六月二十八日附テ以テ當省大臣宛願出アリタル首題ノ件軍用資源
秘密保護法ニ依ル秘匿個處ヲ除キ許可セラレタルニ付現場軍監督
官ノ指導ニ從ヒ細部連絡ノ上撮影セラレ度
尙公開前檢閲致スニ付承知相成度

陸普第四九六四號

昭和拾六年七月壹日

陸普

副官ヨリ兵器本部總務部長へ通牒

首題ノ件ニ關シ同盟通信社ヨリ三菱重工業大井工場内ニ於ケル作
業狀況及各施設ノ寫眞撮影ヲナシ同社發行「同盟グラフ」ニ掲載
致ス旨願出有之軍用資源秘密保護法ニ依ル秘匿個處ヲ除キ許可セ
ラレタルニ付承知相成度

陸普第四九六四號

昭和拾六年七月壹日

陸普

副官ヨリ三菱重工業大井工場長へ通牒

株式会社東京機器製作所

陸軍

首題ノ件ニ關シ同盟通信社ヨリ願出有之軍用資源秘密保護法ニ依
ル秘匿個處ヲ除キ監督官指導ノ下ニ貴工場撮影方ヲ許可セラレタ
ルニ付同社々員出頭ノ際ハ可然取計ハレ度候

陸普第四九六四號 昭和拾六年七月壹日



第一三三九號



攝影許可願

東京市京橋區銀座西七丁目一番地

社團法人同盟通信社

社長 古野 伊之



昭和十六年六月廿八日

今般左記ノ目的及日時ヲ以テ攝影御許可相成度此段及御願候也

一、目的 同盟通信社發行ノグラフ誌「高度國防國家ノ建設」ニ

収録掲載ノ爲メ

一、日時 昭和十六年七月一日ヨリ同七月十日

一、場所 三菱重工大井工場

一、撮影者 東京市京橋區木挽町一丁目七番地

同盟通信社員 小林修三

大正三年二月二十三日生

同盟通信社

一記 者

東京市中野區打越町一三番地

同盟通信社員

高 宮 利 彌

明治四十二年六月十四日生

陸軍大臣 東 條 英 機 閣 下

〔附記〕

「高度國防國家ノ建設」グラフ誌刊行ノ件ニ就テハ陸軍省報道部
御指導ノ許ニ刊行致ス豫定ニテ既ニ御諒承被下タルモノニ有之候

法人 同盟通信社

號

〇 係 一 年

可 速 信 先

一 委 置 入

軍 務 課 於 之

七月四日



閱

歐二普通合第二二四四號

昭和十六年六月十一日

拾年信

第三十六號

陸軍次官殿

在重慶佛國領事館爆擊ノ件

本件ニ關シ今般在京佛國大使ヨリ別紙書翰寫（假譯添附）ノ通申
 越ノ次第アリタルニ付テハ委曲右ニテ御知悉ノ上真相御調査相成
 結果何分ノ儀御回報相煩度此段依頼申進ス
 本信送付先 陸軍、海軍兩次官



外務次官



別紙

添附

軍務課

外務省

高

昭和十六年六月四日附在京佛國大使來翰第四六號
假譯

以書翰啓上致候陳者六月二日日本航空隊ニ依ル重慶爆撃ノ際在同地
佛國領事館ハ約十箇ノ日本側爆彈ノ爲メ其ノ大部ヲ破壊セラレ候
右事實ヲ閣下ニ通報スルト共ニ本使ハ該空爆ニ對シ抗議シ且損害並
ニ賠償ニ關スル一切ノ權利ヲ留保スルノ光榮ヲ有シ候
右申進旁本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候
敬具

一九四一年六月四日

佛國特命全權大使

「シヤルル・アルセーヌ・アンリ」

外務大臣 松岡洋右閣下

Ambassade
de la
République Française
au
Japon

Tokyo, le 4 juin 1941.

n° 46

Monsieur le Ministre,

Le 2 Juin, au cours d'un bombardement de Tchongking par l'aviation japonaise, le Consulat de France en cette ville a été aux trois quarts détruit par une dizaine de bombes japonaises.

En portant ces faits à la connaissance de Votre Excellence, j'ai l'honneur de protester contre cette attaque et de réserver tous droits à dommages et indemnités.

Veillez agréer, Monsieur le Ministre, les assurances de ma très haute considération.

Signé: Charles Arsène Henry.

à Son Excellence
Monsieur Yosuke Matsuoka
Ministre des Affaires Etrangères
etc, etc, etc,
TOKYO

陸軍 第三〇三六ノ

歐二普通合第二三一九號

昭和十六年六月十七日

陸軍次官殿



別紙添附

外務次官



6.17

在重慶佛國領事館爆撃ノ件

本件ニ關シ本月十一日附歐二普通合第二二四四號拙信ヲ以テ申進置ノ次第アル處今般在京佛國大使ヨリ更ニ別紙書翰寫(假譯添附)ノ通申越アリタルニ付テハ委曲右ニテ御知悉相成度此段申進ス
本信送付先 陸軍、海軍各次官

中村

陸務

外務省

昭和十六年六月十四日附在京佛國大使來翰
第五二號假譯

以書翰啓上致候陳者本月四日附第四六號拙翰ニ關聯シ本使ハ在重慶
佛國領事館建物ノ該日本側空爆ニ依リ蒙リタル損害ハ佛貨貳拾萬法
ニ上ル旨閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候
右申進旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

一九四一年六月十四日

佛國特命全權大使

「シャルル、アルセーヌ、アンリ」

外務大臣 松岡洋右閣下